〈算数科〉　４年

「大田区学習効果測定」結果の分析

・どの観点においても目標値を上回っている。前年度の校内正答率や全国正答率も上回っており、理解力は一定の水準で保たれている。一方で、円と球やかけ算などは正答率が総じて低めで、特定領域の理解が十分ではない児童がいるとわかった。
・前述のかけ算及び、たし算・ひき算では、筆算を正確にできていない児童がいる。
・文章問題の読解能力に、総じて課題が見られる。

重点課題

〈知識及び技能〉
・数量の処理や計算が正確にできるようにする。
・定規・分度器やコンパスを正しく使えるよう、さらに習熟させる。
・重さを推察して、適切な単位を使えるようにする。
・知識・理解の定着に個人差があるので、選択コースごとにより相応しい指導法を考える。

〈思考力・判断力・表現力等〉
・問題文を正しく読み取り、立式できるようにする。
・ノート等で既習内容を確認する習慣付けを促すことで、応用的な問題も解けるようにする。

〈学びに向かう人間性〉
・意欲的な児童が多い一方で個人差があり、文章問題など、応用的な課題に対して消極的になってしまう児童がいる。
・少数だが、選択問題でも、解答の空白欄が目立つ児童がいた。

授業改善策

〈知識及び技能〉
・既習内容を確認しながら取り組むことで、定着を確実にする。
・図形の処理において、基本的な作図技能の、日常的な活用機会を確保する。グラフ作成など、教科横断的に定規やコンパスの使用機会を増やす。
・日常生活の中でも基準となる重さや量、単位を意識する機会を増やして量感を育てる。また、適切な単位を使用することができるよう繰り返し指導を行う。
・習熟度別学習の時間を有効に使い、個に応じた課題設定や指導にさらに力を入れる。
・習熟がより必要な児童に対しては、補習教室の機会を活用し定着を図る。
・分数の概念が身に付くように、具体物から抽象化できるようにスモールステップを踏んで指導する。
・身近にあるものの重さなどの量感をつかむために、十分に予想させ、計測する活動を取り入れる。

〈思考力・判断力・表現力等〉
・文章問題に多く取り組ませる。
・キーワードに線を引くなどして問題文を正しく読ませ、既習の学習をもとに考えて解く機会を増やす。
・絵図や線分図などを活用しながら、自分の考えを話したり友達の考え方を聞いたりすることを重視し、自らの力で筋道を立てて考えることにつなげていく。

〈学びに向かう力、人間性等〉
・身近な問題に置き換えて課題を提示するなど、課題提示を工夫する。
・応用的な課題に対しても具体物や身近な教材・教具を使って興味をもたせ、児童が主体的に取り組めるようにする。